

新世代 建築家／ クリエイター 100人の仕事

最新作から進行中のプロジェクトまで一挙公開!

X-Knowledge HOME 特別編集 No.14

2010年2月9日発行 第10巻第1号 通巻37号
株式会社エクスナレッジ
エクスナレッジムック





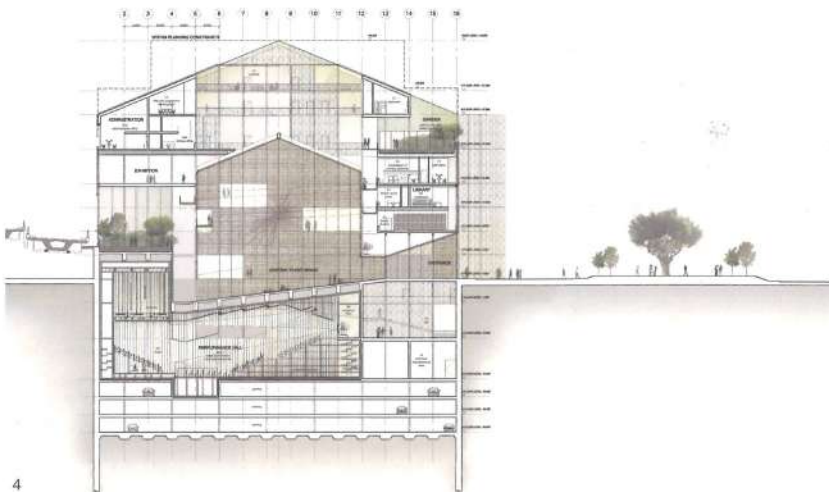
ドレル・ゴットメ・田根
／アーキテクト

DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS



Profile

2006年ダン・ドレル、リナ・ゴットメ、田根剛による「新エストニア国立博物館」の国際コンペティション最優秀賞受賞を機に事務所設立。08年、07-08年度フランス文化庁新進建築家賞受賞、「現代のヨーロッパ若手44建築家」に選定される



多国籍建築家集団が目指す
サイトスペシフィックな建築

—3人でパリに事務所を設立した経緯は？
田根（以下同）：自分たち3人は2005年にロンドンで知り合いました。自分はデヴィット・アジャイエの事務所で、パートナーとなるダンとリナはジャン・ヌーヴェルのロンドンプロジェクトで滞在していました。05年末に「新エストニア国立博物館」の国際コンペがあり、3人で応募すると最優秀案に選ばれたのです。それは一夜にして大舞台へという出来事でした。すぐにプロジェクトが始動するにあたり、パリに拠点を移し、3人でDORELL.GHOTMEH.TANE/ARCHITECTS（以下、D.G.T/A）を設立しました。

—D.G.T/Aの特徴と展望は？
ダンはイタリアとイスラエルのハーフ、リナはレバノン、自分は日本という文化的背景を抱え、同時にこれまでにさまざまな国で生活してきた自分たちは、いわばグローバル世代の第1世代だと思っています。そこにしかない場所、ひとつしかない建築をつくることを目指し、歴史や文化など膨大にリサーチを重ねながら、そこで自分たちはつねに現実としてのコンテキストに対して、新たなコンテキストとなる建築がどのように文化環境を創れるのかを模索しながらつくり続けています。

—海外で活動することで得た建築観とは？
建築はデザインではないということ。自分たちには建築は文化環境だという認識があります。デザインは身のまわりにあり、生活を豊かにするものですが、一方で建築とはそのもうひとつまわり大きな周縁にある環境であり、その環境と時間軸をどのように構築していかれるかということだと思っています。現代は海外に出て行くという感覚よりも、異なる文化環境での経験が可能になった時代だと思っています。その中で20世紀以降の文化、また拠点とするパリで、歴史と文化の強い生活環境で建築について考えられることは、有意義に感じています。

1 「新エストニア国立博物館」展示室、シアター、図書室他 / 34000㎡ (2013年竣工予定) 2 「メザ公園野外劇場ホール」改修、野外劇場 / 14000㎡ (国際コンペティション・優秀案、2007年) 3,4 「ペイルート・アートハウス」展示室、シアター、映写室他 / 17000㎡ (UIA国際コンペティション・入選、2009年)